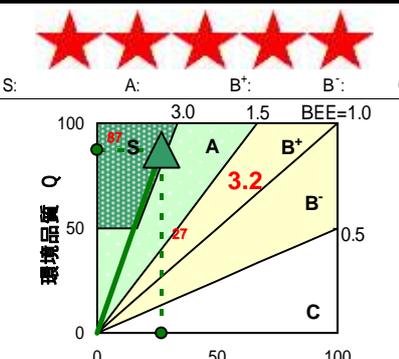


CASBEETM すまい[戸建] 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-すまい(戸建)(2007年版) 使用評価ソフト: SBEE-H(DH)_2007(v1.1)

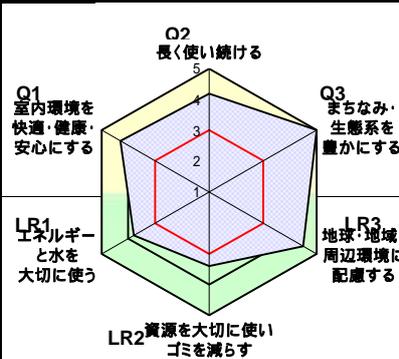
| 1-1 建物概要 | | | 1-2 外観 | | |
|-------------|--------------------|----------|---------------------|------------|---|
| 建物名称 | 万年小路の家 | 仕様等の確定状況 | 建物の仕様 | 確定 |  |
| 竣工年月 | 2007年10月 | 竣工 | 持ち込み家電等 | 確定 | |
| 建設地 | 長野県千曲市 | <備考> | 外構の仕様 | 確定 | |
| 用途地域 | 都市計画区域内 地域区分無 | 確定 | 竣工し家電製品なども設置後に評価を実施 | | |
| 省エネルギー-地域区分 | | | 評価の実施日 | 2008年1月11日 | |
| 構造・工法 | 木造・在来工法 | 確定 | 作成者 | 緑川直彦 | |
| 階数 | 地上2F | | 確認日 | | |
| 敷地面積 | 197 m ² | 確定 | 確認者 | | |
| 建築面積 | 65 m ² | 確定 | | | |
| 延床面積 | 108 m ² | 確定 | | | |
| 世帯人数 | 3 | 確定 | | | |

2-1 すまいの環境効率 (BEEランク&チャート)



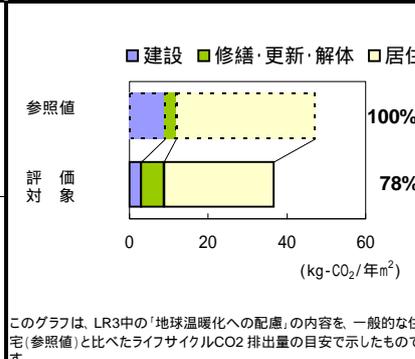
S: A: B+: B-: C:
Q: 環境品質
L: 環境負荷

2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



Q1 室内環境を快適・健康・安心にする
Q2 長く使い続ける
Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
LR1 エネルギーと水を大切に使う
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす
LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



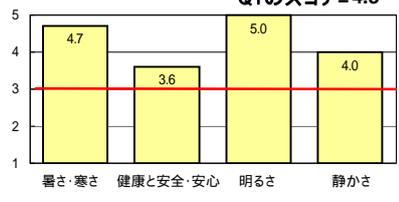
建設 修繕・更新・解体 居住
参照値 100%
評価対象 78%
(kg-CO₂/年m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

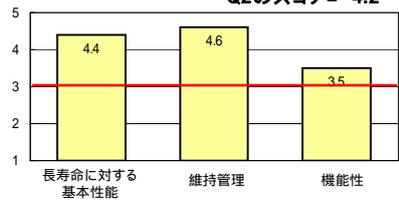
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする
Q1のスコア=4.3



暑さ・寒さ 健康と安全・安心 明るさ 静かさ

Qのスコア= 4.4

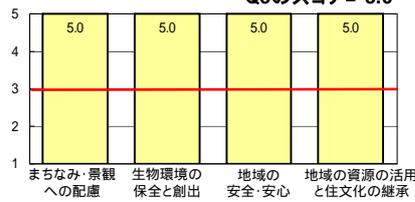
Q2 長く使い続ける
Q2のスコア= 4.2



長寿命に対する基本性能 維持管理 機能性

Q3のスコア= 5.0

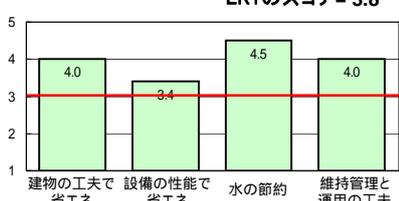
Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
Q3のスコア= 5.0



まちなみ・景観への配慮 生物環境の保全と創出 地域の安全・安心 地域の資源の活用と住文化の継承

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギーと水を大切に使う
LR1のスコア= 3.8



建物の工夫で省エネ 設備の性能で省エネ 水の節約 維持管理と運用の工夫

LRのスコア= 3.9

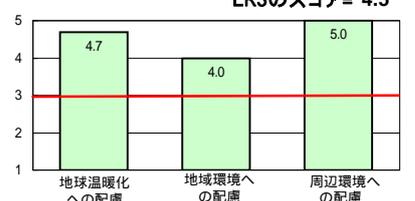
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす
LR2のスコア=3.4



省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用 生産・施工段階における廃棄物削減 リサイクルの促進

LR3のスコア= 4.5

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する
LR3のスコア= 4.5



地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|---|--|--|
| 総合 水害対策の石垣が特徴の古い農村集落の中に、親子3人の為の小振りな住まいを実家の隣りに建てた。主要部分を高床とし、既存の石垣を利用してその上に配置。石垣を残すことでこの集落のもつ時間と景観を受け継いでいくことを考えた。落ち着いた佇まいと現代的な快適さを持った住まいである。 | | 既存の石垣を活かしたアプローチ。植栽や塀を重ねて奥行を作った。庭の景色を楽しみながら落ち着ける居間。東への眺めが広がる台所。コバルドでも広く伸びやかな住まいとなるように工夫した。中心に据えた階段と吹抜けが、住まいに一体感を与えている。 |
| Q1 室内環境を快適・健康・安心にする 自然エネルギー活用・快適性向上のため次世代基準 地域程度の断熱性能を確保。Low-Eガラス樹脂サッシ、外壁は高性能GW充填断熱+外張りGW(付加断熱)。室温安定化のため基礎は外周を断熱、ドリークップ窓で施錠しつつ通風できるように安全面も配慮。 | Q2 長く使い続ける 軟弱地盤に加え段差のある敷地なので鋼管ソリメント複合杭で地盤改良。総2階の単純な形状として外周に耐力壁を十分に配置。軒を出して外壁を保護。高床の床下に暖房ホライや配管類を収めて保守点検・更新を容易にした。 | Q3 まちなみ・生態系を豊かにする 建物と板塀のデザインを合わせた一体感のあるファード。並んだ土蔵に似せたソリット。石垣の段差を活かしたオープンな外構。板塀から通りに緑や灯りがこぼれる。駐車スペースや設備機器は目障りでない所に配置。敷石や緑石は解体建物の古布石を活用。 |
| LR1 エネルギーと水を大切に使う 建築そのもののデザインでハットップに自然エネルギーを活かすことを考えた。大きな南面開口で冬季は集熱。障子を使って開口部の断熱を強化した。軒を十分に出して夏は日射を遮る。通風の確保。小屋裏断熱の強化、天井仕上げの工夫で冷房負荷を減らした。 | LR2 資源を大切に使いゴミを減らす 周囲との調和、階の昇降や暖房など生活エネルギーの低減。建築資材削減を目的として高床としながらも建物高さを抑制した。また単純な総2階で外壁面積を小さくしている。バルコニーはスノコにして防水や下地、上げ裏を省略。内外装材に県産材をできるだけ使用。 | LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する 景観的特長である既存の石垣を残し、低めの板塀で解放的な外構とし、周囲への景観の配慮をしている。敷地は緑地・砂利敷きとし雨水を浸透させるようにしている。地域・周辺環境の向上につながるような住まいを造りたいと思った。 |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 Q: Quality (すまいの環境品質), L: Load (すまいの環境負荷), LR: Load Reduction (すまいの環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (すまいの環境効率)
 CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEEすまい(戸建)の場合、BEE_H、Q_H、LR_Hなどとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
 「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す